



インベントリの管理

Cisco Prime Collaboration Manager は、デバイス インベントリの継続的なリアルタイム検出を保持します。Cisco Prime CM のインベントリには、ビデオ コラボレーション ネットワーク内で実行される追加、削除、および修正がすべて自動的に反映されます。

Cisco Prime CM は、管理対象デバイスのオンデマンドインベントリ更新をサポートします。デバイスの状態はインベントリ収集に基づいて更新されます。すべての管理対象デバイスのインベントリをエクスポートできます。

デバイスの管理は、一時停止や再開ができます。インベントリは、一時停止状態のデバイスでは更新されません。

インベントリ詳細の表示

Cisco Prime CM により管理される各デバイスは、デバイス（インターフェイスおよびペリフェラル）の物理インベントリを表示できるようになっています。デバイスのインベントリ詳細を表示するには、[Current Inventory] ペインの行をクリックします。

表 13-1 Current Inventory

フィールド	説明
Endpoint Name	識別を容易にするためにエンドポイントに割り当てられた名前。
Host Name	識別を簡単にするためにデバイスに割り当てられる名前。
Device Type	Switch、CTS などのデバイス タイプとメーカー名。
Device Model	Catalyst3506G48PS などのデバイス モデル。
IP Address	デバイスを管理するために使用される IP アドレス。 IP アドレスをクリックすると、そのデバイスにログインできます。 ルータおよびスイッチの場合、デバイスにログインするためには、Putty などの端末クライアントアプリケーションを関連付ける必要があります。
Software Type	デバイスで実行中のソフトウェア（IOS、CatOS など）。
Software Version	デバイスで実行されているソフトウェア バージョン。
State	Cisco Prime CM 管理対象デバイスのステータス。
Last Discovered	デバイスが最後に検出された日時。

表 13-1 Current Inventory (続き)

フィールド	説明
Mediatrace Role	<ul style="list-style-type: none"> • [Unsupported] : デバイスは Cisco Mediatrace をサポートしません。 • [Transparent] : デバイスは Cisco Mediatrace をサポートしますが、プロファイルが設定されていません。 • [Responder] : Cisco Mediatrace の応答側プロファイルがデバイスでイネーブルにされています。Cisco Mediatrace の情報をモニタおよび収集する場合、このプロファイルをイネーブルにする必要があります。 • [Responder] : Cisco Mediatrace の発信側プロファイルがデバイス上でイネーブルにされています。Cisco Mediatrace セッションまたはポーリングを開始する場合、このプロファイルをイネーブルにする必要があります。 • [Initiator/Responder] : Cisco Mediatrace の発信側および応答側プロファイルがデバイスでイネーブルにされています。
IP SLA Role	<ul style="list-style-type: none"> • [Unsupported] : デバイスは Video IP SLA をサポートしません。 • [Not Configured] : デバイスは Video IP SLA をサポートしますが、Video IP SLA は設定されていません。 • [Responder] : デバイス上で IP SLA レスポンダのプロファイルが設定されています。このプロファイルが設定されているデバイスでは、測定パケットの処理が行われ、詳細なタイムスタンプ情報を取得できます。 応答側は、宛先デバイスの処理遅延に関する情報を、発信元の Cisco ルータに送信できます。
Performance Monitor	<ul style="list-style-type: none"> • [Unsupported] : デバイスは Cisco Performance Monitor をサポートしません。 • [Not Configured] : デバイスは Cisco Performance Monitor をサポートしますが、Cisco Performance Monitor は設定されていません。 • [Configured] : Cisco Performance Monitor がイネーブルになっているため、ネットワーク内のパケットフローをモニタし、そのフローに影響をおよぼす可能性がある問題点を認識できます。

システム情報

[System Information] ペインには、TelePresence Server を除くすべてのデバイスについて、次のような詳細情報が表示されます。

フィールド	説明
Object ID	エンドポイントのシステム オブジェクト ID。
Up Time	デバイスの実行が継続している時間。
Contact	エンドポイントのコンタクト詳細。
Location	エンドポイントのシステム ロケーション。

アクセス情報

[System Information] ペインには、すべてのデバイスについて、次のような詳細情報が表示されます。

フィールド	説明
Credential Profile Name	検出時に使用される、選択したデバイスのクレデンシャル プロファイル。
SNMP Access Level	クレデンシャル プロファイルで SNMP クレデンシャルが定義されている場合は、[Read Only] が表示されます。
SNMP Version	[Credential Profiles] で定義される SNMP バージョン。
CLI Access Level	CLI クレデンシャルが定義されている場合、Cisco Prime CM ではアクセス レベルが [Read Only] であるか [Read Write] であるかのチェックが行われます。この結果に基づいて、適切な値が表示されます。 Cisco Prime CM に対してそのクレデンシャルが必須でない場合は、[Not Applicable] が表示されます。
HTTP Access Level	クレデンシャル プロファイルで HTTP クレデンシャルが定義されている場合は、[Read Only] が表示されます。 Cisco Prime CM に対してそのクレデンシャルが必須でない場合は、[Not Applicable] が表示されます。
JTAPI Access Level	クレデンシャル プロファイルで JTAPI クレデンシャルが定義されている場合は、[Read Only] が表示されます。 Cisco Prime CM に対してそのクレデンシャルが必須でない場合は、[Not Applicable] が表示されます。

インターフェイス情報

[Interface Information] ペインには、CTS、Cisco Codec、CTMS、MCU、MSE、TelePresence Server、およびネットワーク デバイスについて、次のような詳細情報が表示されます。

フィールド	説明
Physical Address	デバイスの物理アドレス。
Name	デバイスの名前。
Type	デバイスのタイプ。
MTU	最大伝送単位。このインターフェイスで処理できる最大パケット サイズ (バイト単位)。
Speed	デバイスの速度 (Mbps 単位)。
CDP	CDP がイネーブル (True) かディセーブル (False) かを示します。
Operational Status	デバイスの動作状態。
Admin	インターフェイスの管理ステータス。

次の表は、インベントリに関するその他の詳細情報について説明したものです。

- 「CTS および Cisco Codec」 (P.13-4)
- 「CTMS」 (P.13-5)
- 「CTS-Manager および TMS」 (P.13-6)
- 「Cisco Unified CM」 (P.13-6)
- 「MCU および MSE」 (P.13-7)
- 「VCS」 (P.13-7)

CTS および Cisco Codec

フィールド	説明	
TelePresence Endpoint 選択したエンドポイントのタイプ (CTS または Cisco Codec) に基づいてデータが表示されます。	Endpoint Name	識別を容易にするためにエンドポイントに割り当てられた名前。
	Directory Number	エンドポイントで定義されている IP Phone の詳細。
	Call Controller	
	CUCM Address	エンドポイントが登録される、Cisco Unified CM サーバのホスト名または IP アドレス。
	CUCM Cluster ID	Cisco Unified CM サーバが登録されている Cisco Unified CM クラスターの ID。
	VCS Address	エンドポイントが登録されている VCS サーバのホスト名または IP アドレス。
	VCS Cluster ID	VCS サーバが登録されている VCS クラスターの ID。
	Registration Status	コールプロセッサ (Cisco Unified CM または VCS) でのエンドポイントの登録ステータス。Cisco Unified CM または VCS が管理対象ではない場合は、表示される情報は [N/A] です。
	H323 ID	Cisco Codec デバイスで設定されている H.323 ID。
	E164 No	Cisco Codec デバイスで設定されている E164 番号。
	H323 Gatekeeper Address	Cisco Codec が登録されているゲートキーパーのネットワーク アドレス。
	SIP URI	Cisco Codec デバイスで登録されている SIP URI。
	SIP Proxy Address	Cisco Codec デバイスで手動設定されている SIP プロキシアドレス。
	Application Manager	
	CTSMAN	CTS が統合されるアプリケーション マネージャのホスト名または IP アドレス。
	TMS	Cisco Codec が統合されるアプリケーション マネージャのホスト名または IP アドレス。
	Switch Details	
	Connected To Switch	エンドポイントが接続されているスイッチの詳細。
	Port Connected	エンドポイントが接続されているスイッチ ポートの詳細。

フィールド	説明	
Peripherals	Name	アップリンク、電話、カメラ、ディスプレイ、マイクなどの、ペリフェラルタイプ。
	Position	マイクの <i>front_center</i> など、ペリフェラルの位置。
	MAC Address	ペリフェラルの MAC アドレス。
	Software Version	ペリフェラルで実行されているソフトウェアバージョン。
	Model	ペリフェラルのモデル。
	Serial	ペリフェラルのシリアル番号。
	Make	ペリフェラルのメーカーの詳細。
	Firmware Version	ペリフェラルのファームウェアバージョン。
	Hardware Version	ペリフェラルのハードウェアバージョン。

CTMS

フィールド	説明	
Multipoint Switch	Timezone	マルチポイントスイッチで設定されたタイムゾーン。
	SKU	—
	Hardware Model	マルチポイントスイッチが実行されているメディア コンバージェンス サーバの型番。
	Software Version	管理ソフトウェアが現在インストールしているマルチポイントスイッチのバージョン。
	OS Version	オペレーティング システム (OS) バージョン。
	Hostname	マルチポイントスイッチに設定されているホスト名。
	IP Address	マルチポイントスイッチの管理に使用される IP アドレス。
	Subnet Mask	IP アドレスで使用されるサブネット マスク。
	MAC Address	マルチポイントスイッチ ソフトウェアが実行されているメディア コンバージェンス サーバの MAC アドレス。この MAC アドレスは、イーサネット インターフェイス 0 (eth0 ネットワーク インターフェイス カード (NIC)) に属します。フェールオーバーでは、この MAC アドレスは、別のイーサネット インターフェイスがアクティブになっても保持されます。
	Switch Details	
	Connected To Switch	マルチポイントスイッチが接続されるスイッチの詳細。
	Port Connected	マルチポイントスイッチが接続されるスイッチ ポートの詳細。
	Ad hoc Segments	緊急会議で使用可能なセグメントの最大数。最大値は 48 です。
	Maximum Segments	このマルチポイントスイッチが処理できるセグメント (個々のビデオ ディスプレイ) の合計数。最大値は 48 です。
	Schedulable	スケジュール済み会議で常に使用できるセグメントの数。マルチポイント スイッチは、[Maximum Segments] で定義されている数値から [Ad Hoc Segments] で定義されている数値を減算して、この値を自動的に定義します。

CTS-Manager および TMS

フィールド	説明	
Application Manager	SKU	—
	Hardware Model	アプリケーション マネージャが実行されているサーバの型番。
	Software Version	現在インストールされている管理ソフトウェアのバージョン。
	OS Version	オペレーティング システム (OS) バージョン。
	Hostname	アプリケーション マネージャに設定されているホスト名。
	IP Address	アプリケーション マネージャの管理に使用される IP アドレス。
	Subnet Mask	IP アドレスで使用されるサブネット マスク。
	MAC Address	アプリケーション マネージャに提供される MAC アドレス番号。
System Connectivity (下記の注を参照)	Exchange Server : これらの詳細情報は、CTS-Manager でカレンダー サービス (スケジューリング API モード) が設定されている場合にのみ表示されます。	
	Status	Exchange サーバが実行しているか、ダウン状態かを示します。
	IP Address	Exchange サーバに割り当てられる IP アドレス。
	Software Version	Exchange サーバに現在インストールされているソフトウェアのバージョン。
	LDAP Server : これらの詳細情報は、CTS-Manager で Active Directory が設定されている場合にのみ表示されます。	
	Status	LDAP サーバが実行しているか、ダウン状態かを示します。
	IP Address	LDAP サーバに割り当てられる IP アドレス。
	Software Version	LDAP サーバに現在インストールされているソフトウェアのバージョン。



(注) CTS-Manager の場合、[System Connectivity] ペインは CTS-Manager 1.7 および 1.8 に対してのみ表示されます。また、Cisco Prime CM アプリケーションで設定された CTS-Manager ユーザは、CTS-Manager で管理者権限を持っている必要があります。

Cisco Unified CM

フィールド	説明	
Call Processor	Cluster ID	クラスタの一意の ID を提供するパラメータ。このパラメータは呼詳細レコード (CDR) で使用されます。これにより、複数のクラスタから収集された CDR レコードも、それらの発信元を追跡できます。デフォルトは StandAloneCluster です。
	Publisher Hostname	クラスタ パブリッシャに設定されているホスト名。
	Registered CTS Endpoints	コール プロセッサに登録されているエンドポイントの数。
	Total CTS Endpoints	エンドポイントの合計数。

MCU および MSE

フィールド	説明		
MCU or MSE Details 選択した会議デバイス (MCU または MSE) に基づいてデータが表示されます。	Hardware Model	マルチポイントスイッチが実行されているメディア コンバージェンス サーバの型番。	
	Software Version	管理ソフトウェアが現在インストールしているマルチポイント スwitchのバージョン。	
	MCU Type/Device Type		
	Build Version	インストールされているソフトウェアのビルド バージョン。	
	Manufacturer	メーカー名。	
	Hostname	デバイス (MCU または MSE) で設定されているホスト名。	
	IP Address	MCU または MSE の Web ユーザ インターフェイスにアクセスするために使用される、MCU または MSE のネットワーク インターフェイスのローカル IP アドレス。	
	Subnet Mask	IP アドレスで使用されるサブネット マスク。	
	MAC Address	イーサネット ポートの固定ハードウェア MAC アドレス。	
	Connected To Router	MCU または MSE が接続されているルータの IP アドレス。	
	Cluster Type	クラスタがマスターかスレーブかを示します。クラスタが設定されている場合は、[Not Configured] が表示されます。	
	Total Video Ports	MCU で設定されているビデオ ポートの数。 MCU デバイスの場合のみ表示されます。	
	Total Audio Ports	MCU で設定されている音声ポートの数。 MCU デバイスの場合のみ表示されます。	
	SIP (MCU デバイスの場合のみ表示されます)		
	Status	SIP の登録がイネーブルかディセーブルかを示します。	
	Proxy	SIP プロキシのネットワーク アドレス。	
Domain	MCU が登録されている SIP レジストラのネットワーク アドレス。		
H323 (MCU デバイスの場合のみ表示されます)			
Status	H.323 ゲートキーパーの登録がイネーブルかディセーブルかを示します。		
Gatekeeper ID	H.323 ゲートキーパーへの登録時に MCU で使用される ID。		
Gatekeeper Address	MCU が登録されているゲートキーパーのネットワーク アドレス。		

VCS

フィールド	説明	
Call Processor	Cluster ID	VCS の個々のクラスタを識別するためのクラスタ名。
	Master	クラスタ マスターとして設定された VCS ピアの名前。
	Registered Endpoints	VCS に登録されているエンドポイントの数。
	Peers	クラスタ内で設定されている VCS ピアの数。

フィールド	説明	
VCS Configuration	Timezone	VCS で設定されているタイムゾーン。
	Maximum Traversal Calls	VCS で利用可能なトラバーサル コール ライセンスの数。
	Maximum Non-Traversal Calls	VCS で利用可能な非トラバーサル コール ライセンスの数。
	Maximum Registrations	VCS に登録可能なエンドポイントの数。
	Expressway	VCS Expressway が設定されているかどうかを示します。
	Interworking	H.323 システムから SIP システムへ接続できるように VCS が設定されているかどうかを示します。
	Encryption	このソフトウェア ビルドで AES 暗号化が利用可能かどうかを示します。
	Find Me	FindMe がイネーブルかディセーブルかを示します。
	Device Provisioning	VCS でプロビジョニング サーバがイネーブルかどうかを示します。
	Dual Network Interface	VCS Expressway 上で LAN 2 インターフェイスがイネーブルかどうかを示します。
	Starter Pack	Starter Pack オプション キーがインストールされているかどうかを示します。

インベントリの更新

Update Inventory タスクは、Cisco Prime CM インベントリ データベースとネットワークを同期化します。このタスク中、アクセシビリティ検証は実行されません (図 13-1 を参照)。

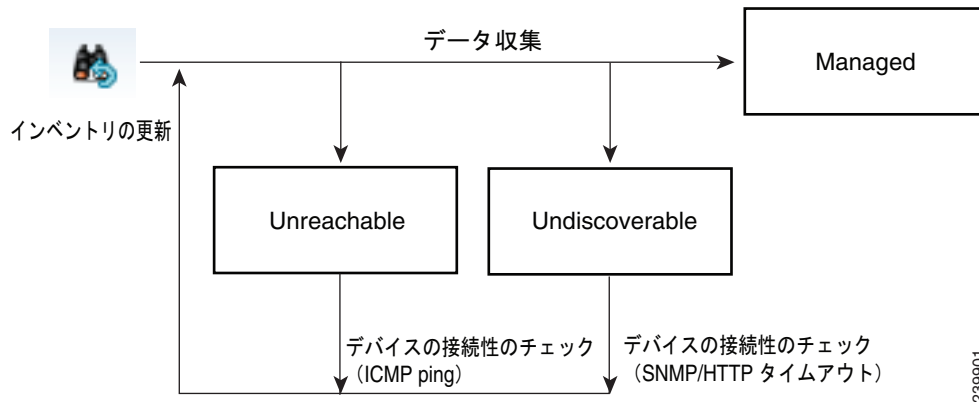
Update Inventory タスクは、Cisco Prime CM で管理されるすべてのデバイスで実行されます。選択された一部のデバイスでのみインベントリを更新することはできません。

Update Inventory タスクは、ネットワーク デバイス インターフェイスで変更があった場合に実行します。Discovery タスクは、デバイス設定で変更があった場合に実行します。たとえば、ソフトウェア イメージの更新、最初のホップ ルータ設定の変更などです。

デバイス クレデンシャルに何らかの更新がある場合は、クレデンシャル プロファイルを更新した後、そのデバイスに対して検出を実行する必要があります。

検出ジョブをスケジューリングするには、「デバイスの検出」(P.12-1) を参照してください。

図 13-1 Update Inventory のライフサイクル



定期的なインベントリ更新ジョブを定義して、Cisco Prime CM データベースを最新の状態にすることを推奨します。

インベントリを更新するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Inventory] > [Device Inventory] を選択します。
[Inventory] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Update Inventory] をクリックします。
[Update Inventory] ページが表示されます。
定期的な検出ジョブをスケジューリングするか、検出ジョブを即時に実行できます。ジョブを即時に実行するには、[ステップ 6](#)に進みます。
- ステップ 3** ジョブ名を入力します。
- ステップ 4** スケジューリングの詳細を入力して、検出ジョブをスケジュールします。
- [Start Date] : 期間の開始日を *MM/DD/YYYY* という形式で入力するか、ドロップダウン リストをクリックしてカレンダーから開始日を選択します。
 - [Start Time] : ドロップダウン リストをクリックして、開始時刻を選択します。表示される時刻は、クライアントブラウザの時刻です。スケジューリングされた定期的ジョブは、この指定時刻に実行されます。
 - [End Date] : 期間の終了日を *MM/DD/YYYY* という形式で入力するか、ドロップダウン リストをクリックしてカレンダーから終了日を選択します。
- 終了日を指定しない場合は、[No Date] をクリックします。
- ステップ 5** [Daily] または [Weekly] をクリックして、定期的なジョブを毎日実行するのか、週に 1 回実行するのかを指定します。
- ステップ 6** [Run Now] をクリックして、検出ジョブをすぐに実行するか、[Schedule] をクリックして、定期的な検出ジョブを後でスケジューリングします。
[Inventory] ページの [List Discovery Jobs] ボタンを使用して、ジョブのステータスをチェックできます。[Job Management] ページに、検出ジョブのリストが表示されます。
-

管理対象デバイスの一時停止およびレジューム

管理対象状態のデバイスを一時停止できます。デバイスが一時停止状態になると、Cisco Prime CM はこのデバイスをモニタしなくなります。つまり、この状態のデバイスのセッション、エンドポイント、インベントリ詳細は更新されず、これらのデバイスにアラームがトリガーされなくなります。

次に、一時停止状態のデバイスの動作を示します。

- デバイスが一時停止状態の場合、Cisco Prime CM はデバイスをポーリングしません。
- 一時停止されたエンドポイントが新しいセッションに参加する場合、[Session Topology] ペインでは、そのエンドポイントが [Unknown] として表示されます。
- 一時停止されたエンドポイントがすでに進行中のセッションに参加している場合は、エンドポイントの状態が [Suspended] に変更された直後に、([Session Topology] ペインの) エンドポイントアイコンが [Unknown] に変更されます。
- CTS-Manager が一時停止の場合、新しいセッション データはインポートされません。CTS-Manager ポーリングは、実行されません。既存のセッション データ（最後にポーリングされたデータ）が、Cisco Prime CM サーバに表示されます。
- Cisco Unified CM パブリッシャが一時停止の場合、Cisco Prime CM は、対応する Cisco Unified CM クラスタに属する登録済みエンドポイントをポーリングしません。
- アクティブ アラームがある場合、すぐにはクリアされません。アラームは手動でクリアできます。手動でクリアしない場合、有効期限が切れた後で、アラームは自動的にクリアされます。デフォルトでは、24 時間です。一時停止されたデバイスでは、新しいアラームはトリガーされません。
- 一時停止されたエンドポイントがトラブルシューティング ジョブにある場合、一時停止されたエンドポイントからトラブルシューティングを実行することはできません。ただし、一時停止されたエンドポイントにトラブルシューティングを実行することはできます。
- デバイスが一時停止状態の場合、エンドポイント使用率レポートには、このデバイスのデータは含まれません。

管理対象デバイスを一時停止するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Inventory] > [Device Inventory] を選択します。
[Inventory] ページが表示されます。
 - ステップ 2** 管理対象状態にあるデバイスを [Current Inventory] テーブルから選択します。
 - ステップ 3** [Suspend Management] をクリックします。
「Selected devices suspended successfully」というメッセージが表示されます。
 - ステップ 4** [OK] をクリックします。
[Current Inventory] テーブルがリフレッシュされ、デバイス ステータスが更新されます。
-

一時停止されたデバイスの管理をレジュームするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Current Inventory] テーブルから、状態が [Suspended] であるデバイスを選択します。
 - ステップ 2** [Resume Management] をクリックします。
「Selected devices resumed successfully」というメッセージが表示されます。
 - ステップ 3** [OK] をクリックします。

[Current Inventory] テーブルがリフレッシュされ、デバイス ステータスが更新されます。

インベントリのエクスポート

[Inventory] ページの [Export Inventory] ボタンを使用すると、エンドポイントおよびインフラストラクチャ デバイス (CTS-Manager、Cisco Unified CM、CTMS、Cisco TMS など) のインベントリ詳細をエクスポートできます。エクスポート データの対象となるのは、デバイスの状態 ([Managed]、[Unmanaged] など) を問わず、すべてのエンドポイントおよびインフラストラクチャ デバイスに関するデータです。

エクスポートされたデータは、CSV 形式で使用できます。

エクスポートされるインベントリ データの詳細については、「[インベントリ詳細の表示](#)」(P.13-1) を参照してください。エクスポートされるデータには、デバイス クレデンシャル詳細 ([アクセス情報](#)) は含まれません。

デバイスの削除

状態が [Unreachable] であるデバイスは削除できます。

Cisco Prime CM サーバから削除されたデバイスは、[Current Inventory] テーブルのリストには表示されなくなります。

そのデバイスを再び検出した場合や、Cisco Unified CM、CTS-Manager、TMS、または VCS の検出が行われる際にそのデバイスが自動的に検出された場合は、そのデバイスの現在の接続状態とクレデンシャルに基づいてデバイスの状態が更新されます。Cisco Prime CM では、削除されたデバイスでも自動検出の対象となります。

また、削除されたデバイスの詳細情報は、過去のセッション データの一部として引き続きアクセスできます。

状態が [Unreachable] のデバイスを削除する手順は次のとおりです。

-
- ステップ 1** [Current Inventory] テーブルから状態が [Unreachable] のデバイスを選択します。
- クイック フィルタとして [Unreachable] を使用すると、この状態にあるデバイスのリストを取得できます。
- ステップ 2** [Delete] をクリックします。
- 「Selected devices deleted successfully」というメッセージが表示されます。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。
- [Current Inventory] テーブルが更新され、削除されたデバイスの名前がこのテーブルから削除されます。
-

